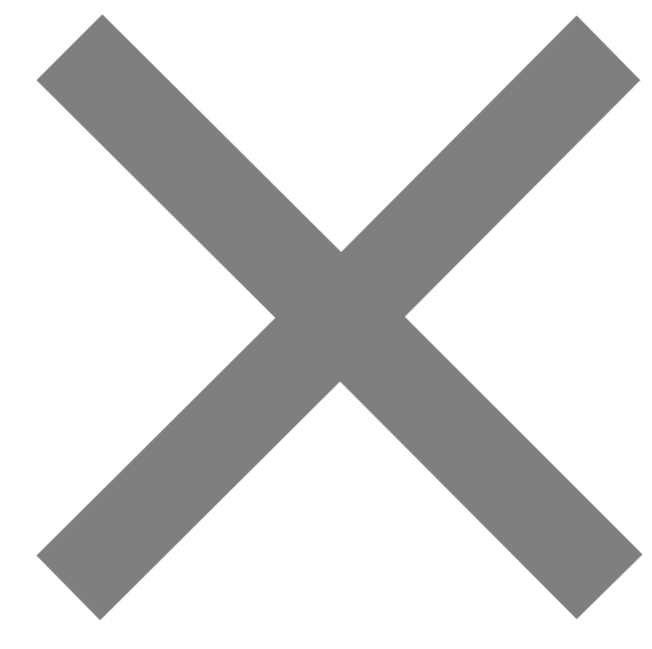


災害ミュージアム



防災地理学

阪本 真由美

災害ミュージアムを
通した記憶の想起と継承

地震・津波などの災害の記憶を伝える「災害ミュージアム」。災害ミュージアムは、災害の記憶を、展示として再構築することにより、それを伝えようとする。ところが、記憶とは多様なものである。同じ災害であっても、想起する記憶は人により異なる。災害ミュージアムは、災害の記憶を想起するメディアとなり得るのか、阪神・淡路大震災から21年を迎える神戸での取り組みを通して考える。

プロフィール

名古屋大学減災連携研究センター特任准教授。専門は防災危機管理、防災教育。博士(情報学)。人と防災未来センター主任研究員を経て、2014年より現職。世界災害語り継ぎネットワーク(TeLL-NET)事務局。災害ミュージアム研究塾・災害語りつぎ研究塾主催。

西村 雄一郎

市民参加型GISによる
災害情報共有の可能性と課題

かつては専門家のものであったGIS(地理情報システム)は、21世紀に入りインターネット上のGISであるウェブGISやウェブ地図が進展したことによって、誰もが比較的簡単に利用できるようになった。これによって、「ネオジオグラファー」と呼ばれる一般の市民による地理情報の作成や共有が盛んに行われるようになったが、これらは各地で頻発する災害を契機として世界中に広がっており、人々の参加・協同がグローバルに行なわれている。日本でも東日本大震災以降、市民による災害・防災に関する地理情報の作成や共有が行われるようになり、特に最近では「シビックテック」と呼ばれる活動によって社会に浸透しつつある。発表では、これらの活動がどのように行われてきたのか、またそれらの活動の今後の可能性と課題について報告・議論したい。

プロフィール

奈良女子大学文学部准教授。専門は地理学、人文地理学。2003年名古屋大学大学院文学研究科史学地理学専攻単位取得満期退学、博士(地理学)。総合地球環境学研究所、愛知工業大学地域防災研究センター、(株)エーアイシステムサービスを経て、2010年より現職。

2016年2月19日(金)14時

南山大学 人類学研究所 1階会議室

14:00 挨拶 後藤明(南山大学人類学研究所)

14:10 阪本真由美(名古屋大学減災連携研究センター)

「災害ミュージアムを通した記憶の想起と継承」

15:40 西村雄一郎(奈良女子大学)

「市民参加型GISによる災害情報共有の可能性と課題」

16:30 質疑応答

司会:宮脇千絵(南山大学人類学研究所)

■南山大学名古屋キャンパス

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩8分
地下鉄鶴舞線「いりなか」駅より徒歩15分

■お問い合わせ先 ⇒ 南山大学人類学研究所

Phone 052-832-3111(代表)

E-mail ai-nu@ic.nanzan-u.ac.jp

HP <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINRUIKEN/>